



伊豆市

議会だより

No.21

発行：伊豆市議会 <http://www.city.izu.shizuoka.jp> 編集：議会報編集特別委員会
〒410-3292 静岡県伊豆市市山550 TEL 0558-85-2606 **2009.8.1** 発行



農林水産省「棚田百選」認定”荒原(あらはら)の棚田”(天城湯ヶ島 長野地区)

目次 CONTENTS

■ 6月定例会の概要	2
■ 市長 行政報告	3
■ 委員会審査	4
■ 一般質問	6
■ 意見書	11
■ 委員会活動	12
■ 9月定例会の予定	14

一般会計総額が137億8,847万2千円に

平成21年6月定例会が6月5日から19日までの会期（15日間）で開かれ、報告4件、補正予算2件、条例の一部改正3件、その他4件、工事請負契約の締結について2件、意見書1件が上程されました。審議の結果、すべて原案を可決しました。

なお、「ごみ手数料徴収（有料化）条例に関する請願」は、みなし不採択となりました。

4月、5月に開かれた臨時会の内容も併せてお知らせします。

平成21年 第1、2回臨時会 6月定例会

第1回臨時会 4/17

報告2件、専決処分報告と承認（税条例等の一部を改正する条例）1件、補正予算1件が上程され、原案を可決しました。

一般会計補正予算（第1回）は、国の緊急経済対策に伴う緊急雇用対策と、プレミアム商品券発行などの市内経済活性化対策を実施するもので、歳入・歳出それぞれ6736万8千円を追加する内容です。

第2回臨時会 5/28

補正予算1件、条例の一部改正1件が上程され、原案を可決しました。

老人保健特別会計補正予算（第1回）は、過年度の精算をするもので、歳入歳出それぞれ882万5千円を追加する内容です。

条例は、伊豆市職員の給与に関する条例等の一部改正するもので、6月に支給する期末手当及び勤勉手当を減額。一般職員のほか、市長、副市長、教育長が対象となりました。

6月定例会

報告

- 平成20年度伊豆市一般会計予算の繰越明許費の報告について
- 平成20年度伊豆市下水道事業特別会計予算の繰越明許費の報告について
- 平成20年度伊豆市後期高齢者医療特別会計予算の繰越明許費の報告について
- 平成20年度伊豆市上水道事業会計予算の繰越の報告について

補正予算

- 平成21年度伊豆市一般会計補正予算（第2回）
 - 施設緊急修繕等、当初予算で計上できなかった事業等を実施するもので、天城温泉プール屋根修繕、浄蓮の滝危険木伐採、修善寺駅北広場駐車場仮設工事、砂防工事に伴う市道付替用地取得など、歳入・歳出それぞれ2110万4千円を増額する内容です。
- 平成21年度伊豆市国民健康保険特別会計補正予算（第1回）
 - 退職被保険者等への資格遡及に伴うもので、歳入・歳出それぞれ

1億4107万円を増額する内容です。

条例の一部改正

- 伊豆市国民健康保険税条例の一部改正

所得割が4.4%から4.75%に、均等割が1万9800円から2万7000円、等に改正されます。（広報いず7月号参照）

- 伊豆市廃棄物の処理及び清掃等に関する条例の一部改正

平成22年4月1日から一般廃棄物の処理に関して、手数料が徴収されることになりました。

- 伊豆市天城温泉会館条例の一部改正について

その他

- 土地改良事業の計画概要について
- 住民票の写し等の交付に関する委託事務の変更について
- 市道路線の認定について
- 市道路線の変更について
- 工事請負契約の締結について（修善寺南小学校屋内運動場建築工事・天城中学校体育館耐震補強工事）

市長 行政報告



平成16年4月1日、伊豆市は人口3万7869人でスタートしました。総合計画では平成22年に3万7千人で人口減少を止め、平成27年には3万7500人に、再び人口を増やすことを目標としてきました。

しかし、実態は大変厳しく、7月中にも3万6千人を割り込むことが確実の情勢となっています。

この状態が続くと、いずれ人口は3万人を割り込み、行政サービスの維持や財政に深刻な影響を及ぼすとともに、伊豆市は回復不能な状況にまで衰退する危険が目の前に迫っています。

この状況を深刻に捉え、「人口減少危機宣言」を発して、市民の皆様事態の深刻さを共有していただくとともに、人口減少を3万5千人で食い止めるために、あらゆる施策を集中することといたします。そのため、次に掲げる具体的施策を、果敢にかつ着実に進めてまいります。

1 市民の所得を増やし、生活の安定を図る

- ① 市長によるトップセールスを一層強化する
- ② 農業法人を設立し、農業の後継者を育成する
- ③ スポーツ事業を収益事業として確立する(体育協会の強化)

- ④ 伊豆市観光戦略を策定する(観光協会の強化)

2 子育て支援策を強化し、安心して子供を育てられる環境を確立する

- ① 保育サービスをさらに充実する
- ② 子供の医療費助成をさらに充実する
- ③ 平成22年4月から、義務教育の通学費を全額市が負担する
- ④ 高校生の通学費助成を、平成24年をめどに導入する

3 結婚相談事業を活性化し、市内独身者の結婚を促進する

- ① 「ふれあいパーティ」を多様化して交流の場を増やすとともに、新たな「地域の仲間さん」の活動を強化する

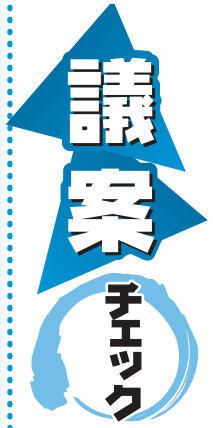
4 土地活用について抜本的に検討し、良質のベッドタウンを整備する

- ① 都市計画を見直し、賑わいのある駅周辺を再生する

また、人口減少を当面補う施策として、観光を総合産業として活性化し、交流人口の10%増を図る。これにより、地域経済を底上げし、市民一人当たりの行政コストの負担を軽減する。

最後に、教育委員会関連ですが、伊豆市学校再編成計画に基づき、新しい学校のより良いあり方を検討する「土肥地区小学校再編成準備委員会」を4月20日に立ち上げました。

これをスタートとして、日本一の教育環境を作り上げるべく、地域の皆さんと力をあわせて参りたいと考えています。



委員会の議案審査で
次のような審議がありました

総務教育委員会

◆21年度一般会計補正予算
(第2回)

問 放課後児童クラブ委託料について、補正予算後の指導員数は何人か。

答 修善寺南小学校区の通称こひつじ園の定員は20人ですが、現在31人が利用しています。

今後、利用者が33人になる予定ですので、この補正予算により、常時勤務者が2人から3人になります。

問 地域づくり推進事業の受入システム構築事業委託料について、委託の内容は。

答 受入システムの構築と田舎体験の実証実験です。

空き家情報、仕事情報、農地情報、田舎暮らしアドバイザーの4つの事業を一体的に実施するため、民間も含めて伊豆市にあった受入システムの構築を目指していくものです。

問 天城温泉プール施設改修工事は、いつ行うのか。

答 早く工事を行いたいのですが、諸手続きもあり、水泳教室がない、7月末から8月上旬の夏休み期間を予定しています。



→ガラスの取替え工事が行われる天城温泉プール

福祉環境委員会

◆21年度伊豆市国民健康保険特別会計補正予算(第1回)

問 退職者医療の対象者を職権で適用させることとした理由は。

答 一般被保険者から退職被保険者への変更は、今まで手紙等を出して手続きのお願いをしてきましたが、被保険者の適用の正確さが求められてきたことから、職権適用に踏み切りました。

◆伊豆市国民健康保険条例の一部改正

問 医療費の増、あるいは収納率の低下により国保税を値上げするのか。

答 医療費は、加入者の平均年齢が上がるほど高くなっています。伊豆市の場合、若い人の加入が減ってきて、平均年齢が上がっている関係上、一人当たりの医療費が増えてきています。

収納率は、昨年と同じ90%の見込みで算定していますので、収納率が下がったから税率を上げたということではありません。

◆伊豆市廃棄物の処理及び清掃等に関する条例の一部改正

問 ごみ処理手数料の減免について、要綱で定めるのは適当でないと思うがどうか。

答 かなり細かい分野にわたるので、きちっとしたものを作って議会に報告し、ホームページや広報紙で説明していきます。勝手に決めて実行するようなことはしません。

問 剪定枝等をトラックで持ち込む場合、最大積載量で料金が決まるのは不公平でないのか。

答 この料金設定は、沼津市との一部事務組合の関係もあり、沼津市に準じた形としました。

問 ごみ袋の年間見込み使用枚数の予測の根拠は。

答 4月27日から5月1日までの一週間、収集車のすべての袋の数を調べて、一年間の枚数を予測した数字です。

経済建設委員会

問 ごみ処理有料化の目的を市民にしつかりと理解されなければ有料化の意味がないと思うが。

答 ごみの有料化の議論をすることによって、年間約6億円のごみ処理費用を考える、あるいは、不法投棄ごみの回収を訴える等の総合的な施策を行う中で、住民意識も高まると思います。

質疑終了後、
動議が提出されました

ごみ処理有料化の目的が不明確である。従って、市民の協力は得られないので、この件は、「議会で継続審査すべきもの」として動議が提出されたが、賛成者少数で不成立となりました。

《用語解説》動議

主として会議の進行または手続きに関し、議員から議会に、または委員から委員会に対してなされる単純な提議であり、議会または委員会の議決を経るべきものものをいう。

◆21年度一般会計補正予算(第2回)

問 修善寺駅周辺整備事業について、社会実験調査では、人が駅北から駅に入れるようにして実験するのか。

答 仮設駐車場を駅北広場に予定していますが、北側からは直接入れません。

問 その仮設駐車場は有料か。
答 無料の予定です。

問 二酸化炭素を減らす意味でも、公共交通機関を利用する方向へ住民意識を変えろの意味でも、行政から企業に働きかけることは必要ではないか。
答 今後、企業に提案し、連携活動が出来るように考えます。

問 駿河湾公共交通活性化協議会負担金関連で、協議会で行う協議内容は何か。
答 海の玄関口となる土肥への誘客に、カーフェリーをどのように活用するかといった、ソフト

面での事業が主です。

◆天城温泉会館条例の一部改正

問 指定管理の期間と考えは。
答 期間は4年半。赤字経営で、一般会計からの繰入れが多額のため、対処法的に温泉を止めました。

しかし、地元の方々の強い要望と、新聞報道を見て、民間からの問合せが幾つかありました。100%保証はありませんが、民間活力の導入という意味で、制度導入を考えました。

問 料金設定は、ある程度の幅があったほうが良いと思うがどうか。また、審査会のメンバーの選び方と方法は。
答 料金の上限は、条例で決めますが、それよりも安い料金を設定することは、指定管理者の提案で可能です。

民間の方が入った既存の審査会で行います。

◆土地改良事業の計画概要

問 紙谷橋の架け替え工事はどうのようにやるのか。

答 橋と並行して道路工事を進めますが、橋を全部撤去・完成するため、期間は2年かかり、道路も通行止めになることが予想されます。

◆市道路線の認定

問 修善寺横瀬月見タウンの認定基準は、人口密度、公共性を有するものとなっているか。
答 都市計画法39条に、開発許可を受けた開発行為または、開発行為に関する工事により公共施設が設置されたときは、その公共施設は、公告の日の翌日において、その公共施設の存する市町村の管理に属するものとなっています。

◆市道路線の変更

問 完成が遅いが、いつ終了か。
答 県営一般農道事業の中で二期地区を完了し、二期地区を工事しています。

大見川に架かる橋について地元の要望もあり、用地交渉を行っている段階です。

市政を問う

～ 一般質問 ～

6月定例会での一般質問は、6月8日、9日の2日間に、16名の議員が39件について行いました。質問と答弁を要約してお知らせします。(質問順)

質問

旧船原ホテル寮、売却の経過について

(森島 吉文議員)

つい先般、上船原区長より裁判の早期解決の要望書が市当局に提出されました。これは一つの区だけの問題ではなく、地域が要望している総論と考えます。当然、裁判費用は市民の納める血税から賄われていると考えます。今までに使われた費用、結審までの日程面などについて伺います。

長弁 市答

裁判の早期終結を期待している

係争中で、建物の改修や事業展開に手をつけられず、地元からの要望に沿うよう、地域活性化や新たな雇用の創出など期待が寄せられているところ です。

弁護士費用と裁判所への出廷、事務担当者との打合せ(年6回)等に要する旅費や日当が年間約135万円となり、結審までの日程を2年と想定しますと、約270万円の負担が生じます。

関係職員の負担も重く、期待される事業計画が滞っていることが、一番懸念される所です。

質問

住宅用火災警報器設置の支援について

(梅原 泰嗣議員)

住宅用火災警報器設置の普及率は、田方消防本部の情報によりますと5月現在、推計28.8%で取付けてある世帯は、まだ少ない状況とのことです。

この警報器の設置については、取付ける位置が天井、または天井付近の壁に限定されており、高齢者世帯および身体的にご不自由な世帯等で取付けが困難な方を対象とし、希望があれば取付け費用の助成等について、行政で支援する対策はあるか質問します。

長弁 市答

設置支援について 早急に具体化を

この法律の改正目的である住宅火災の早期発見・避難による「安全で安心なまちづくり」は、田方消防署などと連携し、市内住宅全戸への早期設置に向けて、更なる普及・啓発活動に取り組んでいきたいと考えます。

高齢者世帯や身体不自由世帯等、火災事故などに巻き込まれやすい世帯への設置支援につきましては、早急はその具体案を検討させていただきます。



↑ 啓発用ポスター

質問
**改革プラン、定員管理・削減
 の実績について**
 (稲葉 紀男議員)

伊豆市の一般会計での職員数は、平成16年度より19年度までに32人削減され、434人になりました。一方、人件費は31億2千万円が31億6千万円になりました。
 職員数の減少が、決算上の人件費の削減に繋がらないのはなぜですか。

長弁
市答
**職員の定員管理等を
 進めます**

人件費増の原因は、共済費と退職手当組合の負担金が増えているのが、おおきな要因です。

この増えている理由の一点目は、共済費及び退職手当組合負担金の上昇によるものであり、二点目は、早期退職制度を実施する中で、退職手当組合への特別負担金がかかってくることによるものです。

また、伊豆市の職員は、何人が適正人員なのか、あるいは定員管理等については、常に検討をしていきたいと思っています。

質問
人口定住化策について
 (内田 勝行議員)

人口定住化プロジェクトチーム会議の報告書には、人口減少の危機的状況を回避するため、様々な施策を検討していくと述べられています。検討項目はどれも漠然として危機感やスピード感が伝わってこず、切迫しているとは感じません。すぐさま検討項目を机上から離し、実施すべきだと考えますが、いかがですか。

長弁
市答
**新しい人口
 果敢に挑戦します**

人口定住化プロジェクトチームは、定住化、企業誘致、限界集落対策等について調査研究をすすめる、中間報告をまとめました。

空き家情報提供制度システム、伊豆市定住体験ツアー、農地情報提供システム、仕事情報提供システム、地場産業体験・農業体験など田舎暮らし体験、定住アドバイザー制度の確立など、作業を進めています。

遊休農地の活用、企業誘致の優遇税制なども考えています。

質問
危険交差点の解消について
 (杉山 羌央議員)

市道城地区から、県道12号線への城入口交差点は、車両通勤者が多く、下地区からの児童の通学にも大変危険です。市道側の幅員が狭隘なため、県道側からの右折車が渋滞し、交通事故も多発しています。

用地買収は完了済みなので、周辺住民の安全生活のために拡幅整備し、センターラインを設置すべきと考えられますが、所見を伺います。



↑城入口交差点

長弁
市答
**県の事業が円滑に進むよう
 最大の協力をします**

実態は把握しており、早急な拡幅、改良が必要であると認識しています。橋梁の架け替えを含む大規模事業となりますが、重要路線であり、用地買収が完了していること等を理由に、県事業による整備を強く要望します。

ただし、県営中山間事業の変更にあたるため、国の認可が必要ですので、それらの手続きを含め、継続した要望活動が必要と考えています。

質問

子育て世帯への支援を

(塩谷 尚司議員)

本年4月に幼稚園、小・中学校の給食費が値上げされました。また、今後、公共料金の改正が検討されるなか、特に子育て世帯には生活費の大きな負担増になると思われます。少子化が進み、大きな問題を抱えている伊豆市で、一生懸命子育てに頑張る世帯を応援する施策、支援について質問します。

長弁
市答

子育て支援、
実践的な計画を進めます

子育て支援について、本年、医療費の助成を小学校就学未満から小学校6年生までに拡大し、他市には例のない出産準備手当を創設し、約1億円の予算を組みました。

また、本年度は「次世代育成支援行動計画」の見直しを予定しています。

これは、子供に関係する各種団体役員や識見者などで「次世代育成支援対策地域協議会」を設置し、5年後の伊豆市を展望して、各種子育て支援事業にかかる調査・研究を行い、実践的な計画を策定するものです。

質問

学校再編について

(三須 重治議員)

市長は、市の少子化や人口の将来展望をどうみているか。また、中高校生の通学の送迎で保護者が大きな負担を強いられているが、今後、小学生にもおおよぶ事を考えると不安を禁じ得ない。これは、バス無料化で解決しないと思うがいかが考えるか。

教育長は再編による利点を強調するが、教育では少人数のほうが利が大きいのでは。

長弁
市答

全力で教育環境整備に
取り組みます

少子化対策を講じていくことはもちろん、良い教育環境を整備する上で、子供たちに対して責任を持ち、人口流出、減少を食い止めたいと思います。中学生の通学費負担は全額市が負担し、高校生についても、早く一定金額を補助したいと思い、検討中です。

長弁
教答

集団活動を通じて心身の調和のとれた発達を目指すなど、社会性・道徳性などの問題は非常に重要だと考えます。それらは、ある一定程度の集団であるほうが育成しやすいと考え、今回の計画の基にもなっています。

質問

がん検診における
受診率向上を

(杉山 誠議員)

がんは、日本人の死因の第1位であり、今や2人に1人ががんになり、3人に1人はがんで亡くなる時代です。多くのがんは、定期的な健診で発見でき、治癒率も高くなります。早期発見、早期治療が大切ですが、がん検診の受診率は非常に低いとされています。受診率を向上させるための取り組みを伺います。

長弁
市答

受診の勧奨や普及、
啓発活動に努めていく

市では、独自の施策として対象年齢を引き下げ、胃がん検診は35歳、乳がん検診は30歳から実施しています。

受診率の向上に向けた予防のための講演会の開催や、広報紙、ホームページへの掲載等、さらには保健委員さんにご協力をいただくなど、検診の必要性について、あらゆる場、機会を通じ、伊豆市がやっている施策のPRの強化に努めたいと考えています。

がん検診を受けましょう

がんは日本の死因の第1位であり、日本人の死因の第1位であり、今や2人に1人ががんになり、3人に1人はがんで亡くなる時代です。多くのがんは、定期的な健診で発見でき、治癒率も高くなります。早期発見、早期治療が大切ですが、がん検診の受診率は非常に低いとされています。受診率を向上させるための取り組みを伺います。

がん種別	対象年齢	検診方法	検診回数
子宮がん検診	20歳以上39歳未満	子宮頸がん検査(HPV検査)	1000回
乳がん検診	30歳以上39歳未満	乳房触診	1000回
胃がん検診	35歳以上	胃がん検査(胃がん検査)	1000回
大腸がん検診	50歳以上	大腸がん検査(大腸がん検査)	1000回
肺がん検診	55歳以上	肺がん検査(肺がん検査)	1000回
前立腺がん検診	50歳以上	前立腺がん検査(前立腺がん検査)	1000回
皮膚がん検診	20歳以上	皮膚がん検査(皮膚がん検査)	1000回
泌尿器がん検診	20歳以上	泌尿器がん検査(泌尿器がん検査)	1000回
婦人科がん検診	20歳以上	婦人科がん検査(婦人科がん検査)	1000回
小児がん検診	0歳以上	小児がん検査(小児がん検査)	1000回

伊豆市健康課 がん検診課 0256-22-1111

→ 検診日程を知らせる
ポスター

質問
高齢者の暮らしやすいまちであるために

(室野 英子議員)

高齢者のひとり暮らし、高齢者だけの世帯が増えて、全世帯の4分の1に当たります。ふだんはお元気に自立して生活されていますが、急に日常生活上、手助けが欲しい時があります。病院に付き添って欲しい、買い物頼みたい…等、ファミリーサポートセンターが利用できませんか。

長弁 市答
ファミリーサポートセンターの活用を検討します

市では、すべての高齢者が健康で生き生きと、安心して暮らせるよう、さまざまな支援を行っています。それは、「生活管理指導員派遣事業」や「食の自立支援事業」「緊急通報システム設置事業」などがあり、必要に応じ、これらを利用することができます。

現在、子育て支援のためファミリーサポートセンターが設置されていますが、今後、高齢者支援についても一緒にできないか、事務方に検討をさせます。

→ファミリーサポートセンターのチラシより



質問
上水道改正案の給水料金について

(鈴木 初司議員)

市長は、周辺市町の料金を参考に、適正な料金体系に移行すべきとのことでした。近隣市町は20立方mの基本水量が基本料金に含まれる基本水量制がとられています。

伊豆市の改正案は、基本料金と従量料金の完全二部料金制です。近隣市町と異なる料金体系で生活用水への配慮に欠け、料金が高くなります。水道料金の値上げですし、料金体系の変更を市当局に求めます。

長弁 市答
公共料金は、負担の公平性を重視して

基本料金は、インフラ整備に係わる負担金です。そして、完全に使用料に应ずる従量料と合わせて二部制としました。

これは、使用料に应じて支払っていただく負担の公正性というものを重視してこの制度を採用したわけで、何を重視するかという視点の違いだと思っています。

また、料金水準は県東部では高い方になっています。これは、面積が広いことと、将来、市の財力が低下することを危惧して、必要な事業を進めたいということです。

質問
公共下水道と合併浄化槽等の負担の不公平是正は

(松本 覺議員)

今、市民の受益と負担の公平性を大前提に値上げを伴う公共料金の見直し施策が進められています。しかし、公共下水道加入者(全戸の50%以下)と合併浄化槽等を設置している非加入者との経費負担の差は大きい。

前者が年料金3万数千円、後者の年経費は9万数千円、下水道特別会計の49%にあたる8億6千万円が一般会計からの繰入金である。この不公平性とその是正策について市長の所感を伺います。

長弁 市答
下水道事業には多くの課題があり、公平確保は急務

下水道の維持整備は全国的な課題ですが、将来、負担に耐えられない懸念さえ持っています。環境保全とイかにバランスを図るかが課題であると考えています。

個人負担の不公平については、議員のご指摘のとおりで、内部で検討しています。計画区域、認可区域の見直しを年度ごとに予算化し、慎重に進めます。合併浄化槽補助を考えられています。

究極の公平性は、すべてを市営化し同一料金とすること考えますが、結論を出すまでもう少し時間をいただきたい。

質問

瓜生野用水の改良について

(森 良雄議員)

瓜生野用水は農業用用水です。横瀬から瓜生野にいたる2kmほどの用水路です。横瀬地区の改良は済んでいます。瓜生野地区は未改修のままです。県道沿いにあります。

排水能力が小さく、大雨で県道は水であふれます。県道のすぐ脇に口を開けており、人が落ち、車も落ちます。バスが落ちたこともあります。市長の見解を伺います。



↑ 瓜生野用水

市長
市答

排水機能の確保から

排水機能を上げるには、既設水路の改善が必要です。これは、道路管理者の県土木事務所との合意形成が必要です。

市としては、排水機能の確保を、まずしていかなければならないと考えています。水路の蓋については、排水機能が確実に確保された後に、関係者、関係機関と協議しながら進めていきたいと考えています。

質問

学校再編と人口減少対策に整合性はあるのか

(西島 信也議員)

小学校がなくなった地域に住宅が増えることは、夢物語でしかありません。若い人は子育てしやすい地区へ転出し、その地域の人口は減少の一途をたどるばかりです。

市が進めようとしている学校再編と人口減少対策とは、政策の整合性はないと判断しますが、市長の見解を伺います。

市長
市答教育問題に照準をあてて
もらいたい

学校再編により、地域の問題、人口減少も含めいろいろなデメリットがあるのは認めますが、今はその議論ではなく、教育の議論をしていただきたい。今の子供たちに犠牲を強いるようなことは、してはならないと思います。

通学の問題はありますが、再編の結果できる2クラス、あるいは1クラスでも30人の学校と今の学校と、通学以外でどこが今の学校のほうがいいのかを議論していただきたいと考えています。

質問

橋とガードレールの
安全対策について

(関 邦夫議員)

市内には多くの老朽化した危険な橋があると思われませんが、危険箇所の改修が進んでいないのではないか。未整備のガードレールの設置要望があると思われませんが、財政難にかけ、いつまでも遅らせることはできません。橋の調査はできていますか。

ガードレールの設置必要箇所を先送りしていませんか。

市長
市答

点検、整備を進めます

市が管理する道路橋は、1級市道59、2級市道85、3級市道534、合計678橋あり、そのうち、建設後50年を超える橋は70あります。

長さ15m以上の橋の長寿命化を図るために、平成20年は21の橋の点検を行い、今年度は50の橋の点検を予定し、対象となる119橋を22年度までに点検を完了し、修繕計画を作成します。

ガードレールは、防護柵の設置基準に従い、整備を進めます。

質問
地域活性化プロジェクトに
関して

(大川 孝議員)

合併後の新たな諸問題は、プロジェクトチームによる慎重な検討が必要です。学校再編に伴う廃校、本庁統合に伴う支所の再活用などは、地域の活性化につながる展開が重要です。

また、若い世代が定住したいと思う新生伊豆市の創出に向けての課題など、問題は山積しています。これらの点に関し、市長の所見を伺います。

長弁
行政と地元住民等の
市答 合同チーム作りを進めます

ご提言・ご指摘の問題点、いずれも重要課題と考えます。

学校施設の活用は、教育委員会だけでなく、市役所部課を横断的に検討し、地元の方々の話し合いも欠かせません。チームの編成はケースバイケースとなりますが、実現化を進めていきます。

定住化プロジェクト全体につきましても、市職員で編成していましたが、なるべく早く市民の皆様にも入っていただき、将来像を描いていきたいと思えます。

質問
水道料金、大幅値上げの
数字合わせか？

(木村 建一議員)

数ヶ月前、平成21年度の上水道事業会計予算は、黒字として議決をしました。ところが、水道料金を決める5ヵ年計画では、赤字に転落させています。値上げをするがための数字合わせでしょうか。説明を求めます。

基本料金525円、水量料金104円を、基本料金647円、水量料金96円に変更した理由は。

長弁
予算編成と料金改定、
市答 現時点での選択

予算編成の際は赤字予算を組むことはできないので、人件費、修繕費等を切り詰めようにか黒字予算としました。しかし、料金改定は、適正な運営を行うためには料金はいかにあるべきかを求めるものであり、作業の目的が違ふことから、21年度予算書の数値と料金算定の数値は異なります。

料金の変更については、当初、市役所の諮問案として、口径13ミリについては基本料金525円、水量料金104円を提案しましたが、審議会のご議論のなかで3案を提示し、基本料金647円、水量料金96円が賛同され、現在の水道料金の案に変更しました。

6月定例会で意見書を採択し
関係機関に提出しました

意見書

新たな過疎対策法の制定に関する意見書（要旨）

伊豆市は、旧土肥町が実施してきた過疎対策事業を引き継ぎ、「伊豆市旧土肥町地区過疎地域自立促進計画」のもと、道路整備や生活インフラ整備、防災対策事業など、総合的な過疎対策に取り組んでいる。しかし、人口減少や高齢化は歯止めがかからず、基幹産業の衰退、生活交通手段や医療、教育の維持が困難となっていることなどから、次の事項について、国に強く要望する。

1. 「過疎地域自立促進特別措置法」失効後の新たな過疎対策法を制定すること
2. 市町村合併の進展を踏まえ、新たな法律においても「一部過疎」制度を継続すること
3. 過疎対策事業債等の所要額を確保するとともに、地方交付税上特段の措置を講ずること

提出先 内閣総理大臣 総務大臣 財務大臣 農林水産大臣 国土交通大臣

委員会の活動報告

総務教育常任委員会

4月28日、西伊豆スカイライン沿いで計画されている「風力発電事業建設予定地区」の視察を行いました。臨時会終了後でもあり、当委員会以外の議員も、多数参加しました。

2、3月に天城湯ヶ島支所や修善寺生きいきプラザにおいて事業主による「市民説明会」が開催されましたが、今回は、実際に予定地区を視察することにより、環境問題や景観問題に直接触れることが目的でした。

現地へ移動する車中において、現地調査会社より、風車の配置計画や風車からの低周波音に関すること等の説明を受け、また、ところどころで車を止め、風車建設予定場所や位置、高さなどを確認していくつか質疑も出されました。

船原峠から西伊豆スカイラインを達磨山方面へ向かう途中、分岐



↑ 現段階でのイメージ図

点東の平和寺本山脇には、高さ50mの風況観測塔2本のうちの1本が立てられており、そこから風車13基の建設が予定されている尾根を一望することができました。

生活の中にはさまざまに「音」が存在しています。一般的な生活環境の中で低周波音は存在しますが、病的な影響を引き起こす直接的な原因にはならないと言われています。低周波による音は、基本的には空気振動がもたらす「音」だということでした。

風車から一番近い民家までの距離は約1kmで、騒音の影響はないとのことですが、動物の生態系、植物の植生への影響はわかりません。

西伊豆スカイラインは、駿河湾や富士山を望め、コメザクラやドウダンツツジなどが群生する、ドライブやツーリングのコースとしても親しまれているところです。

地球温暖化の原因となる二酸化炭素を排出しない、クリーンな自然エネルギーとして、風力発電は期待されますが、この場所が適地かどうか、地域の皆さんの意見も重視して、今後も十分検討していきたいと思えます。

福祉環境常任委員会

福祉環境委員会では、4月24日、不法投棄の現場視察を行いました。不法投棄現場は、市内広範囲に及んでいるので、今回は、船原峠から土肥方面・達磨山方面に限定して行いました。

船原峠の元料金所脇の駐車場下には大量の衣類や家電・一般ごみ

が大量に投棄されており、「これはひどい！」と、思わず叫んでしまいました。

次に、土肥方面に向かいましたが、新道の開設で使われなくなった旧道にも、大量の家電や一般廃棄物が投棄されていました。

ここは、常習的に不法投棄が行われていることで、できればこの道は閉鎖したいとのことでした。

この後、西伊豆スカイラインから達磨山広域林道へ入り、100メートルほど進むと、急斜面に大量の家庭ごみなどが投棄されており、この先かなりの区間は、切れ目が無いほどに投棄され、不法投棄銀座と呼ばれていました。



↑ 不法投棄されたごみ

これらの不法投棄以外にも、車に乗って見て見える不法投棄はあちこちに点在しており、景観を台無しにしています。



↑回収には重機を必要とする場所が多い

午後は、天城湯ヶ島支所に戻り、環境衛生課より市内全域の不法投棄の実態について説明を受け、意見交換を行いました。

委員からは、
 「重点地域を指定して回収」
 「回収の長期、短期の計画目標を」
 「監視員の見回り強化」
 「市条例で罰則を」
 「広報、区長会等で市民への意識高揚をはかるべき」等、多くの意見が出されました。

「不法投棄は犯罪」との意識を多くの人で共有して、環境も人の心もきれいな伊豆市を築きたいものです。

経済建設常任委員会

6月3日(水)、平成21年度の所管主要事業について、市建設部並びに県沼津土木事務所および修善寺支所の各担当者より説明を受け、今後の議会活動に資するため、委員会を開催しました。

建設部 土地対策課

修善寺駅前周辺整備事業計画について、3D(立体)画面による説明を受けました。

同部 建設課

国土調査の実施箇所の説明と、農林土木、一般土木、県営事業等を写真、地図により説明を受けました。

同部 上下水道課

上水道工事箇所、下水道工事箇所の説明を資料により受けました。

修善寺駅前周辺整備事業についての質疑として、

- ・修善寺駅舎は、伊豆箱根鉄道株と共有となり、協定を結ぶこと
- ・立体駐車場は10億円くらいかかるため、30台分を確保したこと等が説明されました。

また、土肥浄化センターの老朽化については、
 ・海岸に近く錆びついてきている
 ・耐震補強が必要との説明がありました。

県土木事務所修善寺支所(伊豆市)

管内の道路事業31箇所、河川事業5箇所、砂防・急傾斜地事業12箇所の事業説明を受けました。

質疑のあったものうち、
 ・県道天城修善寺線の水路蓋の無い所について、設置したいと考えている
 ・大仁熱海線の狭い所は、用地の問題もあり、解決しないと難しい等々、諸問題について説明が行われ、話し合いが行われました。



↑本庁特別会議室にて

非常に厳しい財政難の中だが、緊急支援対策に該当する事業は、早急に事業展開をしてもらえるようなので、少しは明かりが見えてきました。これからが正念場だと感じられた委員会でもありました。



議会傍聴アンケート

6 月定例会の傍聴者は 34 名でした。
(アンケートにご協力いただいた方は 20 名です)

お住まいは 天城湯ヶ島地区 (11)、修善寺地区 (3)、土肥地区 (1)、市外 (5)
年齢は 60 歳代 (17)、70 歳代 (3) 性別は 男性 (10)、女性 (10)
議会傍聴は 初めて (9)、ときどき来る (10) 議会だよりは 読む (14)、読んだことがない (5)
録画中継の視聴は 見たことがある (4)、ない (15) →パソコンがない (1)、知らなかった (4)

傍聴をしようと思った理由は？

ごみ・水道問題・学校再編に関心がある、一度見てみようと思ったから、風力発電建設に関心がある、民生委員活動の一つ、市民の義務だから

傍聴して気づいた点など

- ・ 聞きたい。言葉のあげ足通りの様なことでなく、必要な事項であるかどうかで議論を。
- ・ ごみ置き場のごみを見ると、どうにかしなければと思う。有料化も仕方ないかなと思う。
- ・ 議員の質問に、まともに答弁を。
- ・ 綿密な調査、準備をして質問する議員もいたので、それに対応した市側の準備も万全を。
- ・ 議員は、各一般質問を議員共通の質問として受けとめるべき。
- ・ 一般質問の内容が判りにくい。

ご意見・ご要望など

- ・ 議員さんに、税金が安くなれば良いのではなく、税金を安くする努力を市民自身もすることが大切だというアピールをしてほしい。行政に依存するばかりの態度ではダメ。
- ・ 各家庭で出すごみをもっと少なくするためには、地域での勉強会など、市から指導を。
- ・ 活気がない。どうしたら元気ができるか…。
- ・ 税金は、使われるべきところにきちんと使われるのであれば、市民も納得すると思う。
- ・ 重要なことについては、損得等抜きに進めて。
- ・ 風力発電建設は、自然を守る観点で検討を。
- ・ 議会は、本庁で開くべき。
- ・ もっと、市のためになる問題に取り組んで。

ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました

議会傍聴・視聴のご案内

本会議はどなたでも傍聴することができますので、当日、天城湯ヶ島支所2階へお越しください。
なお、団体の場合は事前に議会事務局までご連絡をお願いします。

また、本会議の中継(録画)を市のホームページにて視聴できますので、ぜひご覧ください。
(議会事務局05588852606)

9月定例会の予定

場 所 天城湯ヶ島支所 議場
時 間 午前9時30分～
9月2日(水) 議案上程
提案理由説明
8日(火) 一般質問
9日(水) 一般質問
11日(金) 議案質疑
25日(金) 委員長報告・
質疑・討論・採決
※変更となる場合がありますので
ご承知ください。

編集後記

市民の皆さん、「議会だより」は、議会活動のダイジェスト版です。読みやすく、わかりやすくつくられています。

この定例会は、予算的には小さな補正でしたが、中身はこれからの伊豆市のあり方を方向づける、大きな内容を含んでいました。

冒頭の市長の「人口減少危機宣言」にはじまり、補正予算では、地域づくり推進事業や修善寺駅周辺整備計画で、駐車場についての社会実験の導入が決まりました。

国民健康保険税、ごみの有料化、天城温泉会館の指定管理者制度の導入が決まりました。

伊豆市の将来を決める議会だったと思います。ぜひ、『議会だより』をお読みください。

編集委員 森 良雄

